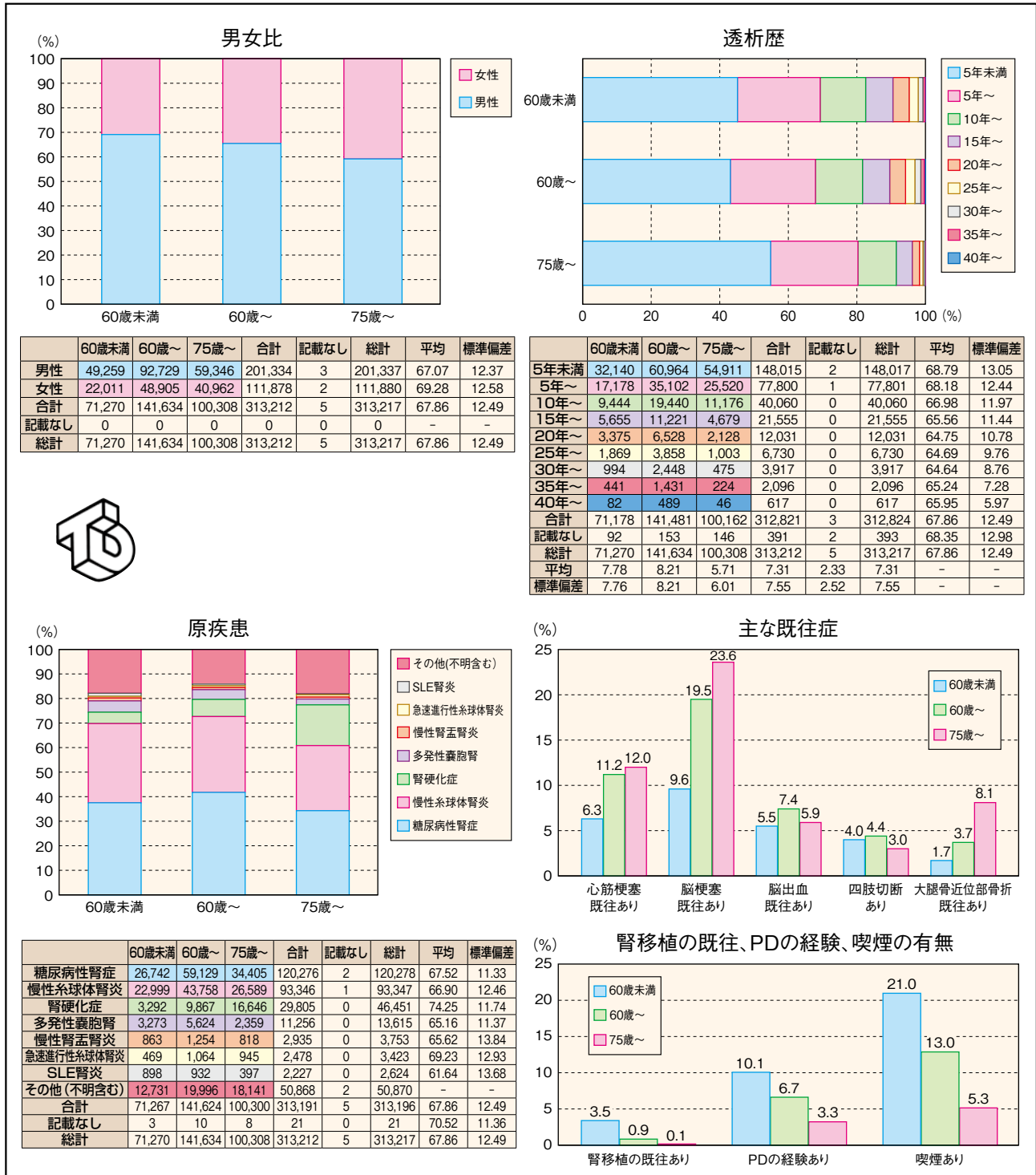


4) 高齢者の透析

(1) 高齢透析患者の現況 (図表47)



集計対象：透析患者全体

解説

75歳以上の透析患者を「高齢透析患者」と定義し、60歳未満、60歳～74歳の群と比較した。それぞれの群の患者数は、60歳未満が71,270人、60歳～74歳が141,634人、75歳以上が100,308人であった。

男女比について、高齢化するにつれて女性の比率が高かった。高齢透析患者の透析歴は最も短く、5年未満が54.8%、10年未満が80.3%を占めた。原疾患では、腎硬化症が多く、比較的、糖尿病性腎症や慢性糸球体腎炎が少なかった。高齢透析患者の既往をみると、心筋梗塞、脳梗塞、大腿骨近位部骨折の頻度が高いのに対して、脳出血や四肢切断は他群と差を認めなかった。その他、腎移植およびPDの既往、喫煙の有無については、他群に比べて顕著に低かった。